



江東区砂町文化センター 発行日
〒136-0073 平成30年3月20日
東京都江東区北砂5-1-7 発行元
電話：03(3640)1751 江東区砂町文化センター

結果報告

平成二十九年 「はこべら」俳句大会 授賞式



▶授賞式の様子

二〇一八年三月十一日（日）、平成二十九年の「はこべら」俳句大会授賞式が、砂町文化センター二階、波郷記念館前の展示ロビーにておこなわれました。

今年度は三百五十名の方から応募があり、波郷を偲ぶ句、四季雑詠句とあわせて七百句の投句をいただきました。

授賞式では、その中から選ばれた「はこべら」賞、石田波郷記念館賞、各選者の先生方の特選、入選句の表彰および講評をおこない、盛況の内に式は終了しました。

●今年度の「はこべら」俳句大会、「はこべら」賞を受賞されたのは栃木県の星野榮子さん。

「白粥の吹き窪ひかる惜命忌」

【講評】

「白粥の吹き窪」まではよく詠まれるそれを「ひかる」とした表現に美しさと哀しさがある。季語「惜命忌」も効いている。

（「馬酔木」主宰徳田千鶴子）

【講評】

風邪や熱で体力が消耗しているときに母親が作ってくれた白粥の味は忘れられない。熱い粥を吹き冷ましながらか少しづつ病身の口に運んでいく。粥を吹いた時に出来た「吹き窪」のひかりから「生きる」ことの尊さを実感した。折しも波郷忌であった。

（「沖」主宰 能村研三）

※「はこべら」賞は、波郷をしのぶ句の中で最高得点の句です。

●続いて石田波郷記念館賞を受賞したのは東京都の堀内清瀬さんでした。

「流し雛」

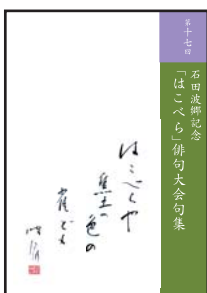
もとより櫓権なかりけり

【講評】

流し雛は節句に飾った雛などを個々に海や川へ流す風習で、罪やけがれを移して形代を流したことに由来する。その流し雛には櫓権が無く、いずれ沈んでしまふことを前提に作られていることに作者は着目した。何か寂しさをただよわせる句である。

（「沖」主宰 能村研三）

※石田波郷記念館賞は、四季雑詠句の中で最高得点の句です。



☆ 販売 ☆
「はこべら」俳句大会に投句された全作品を掲載した句集を砂町文化センターの窓口にて販売しています（五〇〇円）過去の大会の句集も販売しています。

5月19日(土)	4Tと呼ばれた女性俳人たち— 中村汀女・星野立子・橋本多佳子・三橋鷹女
6月16日(土)	女性俳人の草分け— 長谷川かな女と杉田久女、竹下しづの女の功績
7月21日(土)	昭和～平成へ— 俳壇を彩る女性俳人たち

講師プロフィール



高田 正子 TAKADA MASAKO

俳句結社「藍生」会員。俳人協会幹事。季語と歳時記の会理事。大学、カルチャーセンターで講師を勤める。句集に『玩具』、『花実』（平成17年第29回俳人協会新人賞）、『青麗』（平成26年第3回星野立子賞）、著書に『子ども的一句』がある。



受講料 三、〇〇〇円(全三回分)
教材費 一、〇〇〇円(全三回分)
日時 平成三十年五月十九日(土)～七月二十一日(土)
回数 全三回
場所 砂町文化センター第一会議室

時代の移り変わりとともに女性にとつての俳句にも変化がありました。この講座では、明治から現代までの間に活躍した女性俳人たちを取り上げ、詠まれた句を鑑賞しながら、その魅力を探っていきます。

女流の俳句



春の講座 受講生募集

平成三十年度前期
お申込み・お問い合わせ
〇三三三六四〇一七五二

俳句鑑賞講座 講師 高田正子（「藍生」会員）

企画展「波郷 あき子の相聞句」

英語解説書 PART②

[英訳：根岸正（通訳案内士）]

企画展内で配布した企画展解説書の一部です。

※PART①は前号に掲載。

Exhibition 3 : Wife visiting Hakyo in hospital

Hakyo entered Tokyo National Hospital in Kiyose in 1948 to receive medical treatment for tuberculosis. The direct distance from Suna-machi to Kiyose is about 30 km. In those days, it took two and half an hour between them by changing trains. Akiko stayed overnight in the hospital to take care for Hakyo whenever he had an operation. But it was difficult to leave their little children alone in Suna-machi for a long period.

When she visited him in hospital once or twice a week at most, Hakyo told her in a letter that he always worried about his family and of the details of his physical condition.

He was usually a man of few words, but his letters to his wife were full of humor and love. The contents of his letters clearly give off his kindness and gentleness toward his family.

Hakyo put up with three-time operations in Kiyose, and then he returned to Suna-machi in 1950.

【日本語訳】

一展示コーナー3「見舞い妻」

1948年、波郷は結核の療養のために清瀬の国立東京療養所へと入院します。砂町から清瀬までは直線距離で約30キロ、当時、電車を乗りついで片道二時間半はかかっていました。手術の折には泊りがけで看病をしていたあき子ですが、幼い子どもを長く砂町に残しておくわけにもいきません。週に一・二度となった見舞いの間、波郷はあき子へ手紙を送り、いつでも自分は家族を心配していること、身体の具合などをこまめに知らせました。普段は寡黙な波郷でしたが、妻に宛てた手紙はユーモアと愛にあふれ、家族をいたわる優しい気持ちが文面からよく伝わってきます。そして波郷は清瀬にて計三回の大手術に耐え抜き、1950年、砂町へと戻っていきました。

Exhibition 4. Akiko's haiku spirit

Akiko began to compose haiku after she married Hakyo. First, Hakyo did not look happy with Akiko's haiku-composing. When her three haiku appeared in the haiku magazine "Tsuru" run by Hakyo, he recognized her talent for haiku and finally approved her composing haiku.

Themes of Akiko's haiku were mainly based on her own life and always focused on Hakyo.

Akiko always stayed so closed to Hakyo who established a solid position as a haiku poet. Along with her inborn ability, she developed her talent for haiku more than ever.

【日本語訳】

一展示コーナー4「あき子の俳句精神」

あき子が俳句を始めたのは波郷と結婚してからのことでした。そのことに対して波郷はあまりいい顔をしませんでしたが、波郷が主宰をつとめる俳句結社「鶴」に三つの句が掲載されたことをきっかけに、あき子の俳句づくりを許します。

あき子の詠む俳句の中心には、必ず波郷がいました。俳人としての地位を築いた波郷の一番近くにいたあき子は、もともとの才もあいまってどんどん自身の俳句を磨いていくことになります。

Exhibition 5. "Mimai-kago (Visitor's woven basket) from Hakyo to Akiko

"You have looked after me for years. This is a small gift for you." Akiko could not turn down Hakyo's proposal to publish her haiku collection, although she felt ashamed with it.

Hakyo managed to raise enough money to publish her haiku collection and gave the detail instructions including selection of her haiku for publication and even the design of binding. Therefore, he would have looked forward to the completion of her haiku collection far more than anyone.

Unfortunately, however, he passed away from heart breakdown just before he tried to write his postscript for her collection. He was 56 years old and still so young. About one month later after his death when she was still heartbroken with deep grief, the poem collection "Mimai-kago" was published with its imprint by "ISHIDA Hakyo, publisher".

【日本語訳】

一展示コーナー5「波郷からあき子へ『見舞籠』」

「長年看病してくれたおまえにささやかな贈り物だ」

波郷のこの言葉に、自分の句集を出すことを「いやだ、恥ずかしい」と思っていたあき子も拒むことはできませんでした。出版するにあたっての費用の工面、掲載する俳句の選定や装丁のデザインまでも細かく指定した波郷は、誰よりも句集の完成を楽しみにしていたはずでした。しかし、不幸にも、最後にあとがきを書くのみとなったところで波郷は心衰弱のために亡くなります。56歳という若さでした。悲しみが癒えぬまま、その約一ヵ月後に完成した『見舞籠』の奥付には、「発行者 石田波郷」と記されています。

砂町文化センターニュース

Vol. 39

春の講座募集案内

現在、4月下旬から5月に始まる講座の受講生を募集しています。3月24日までが同着の申込期間で、25日以降は先着順で受付いたします。

ご希望の講座がありましたら、今すぐ！砂町文化センターへお電話ください。※波郷記念館だよりに俳句鑑賞講座の募集も掲載中です。

国際理解
語学

カズオ・イシグロ ～作品から知る世界～

ノーベル文学賞に輝いたカズオ・イシグロ。5歳で渡英するまで長崎で過しました。彼が伝えたい普遍的な時空を超えた問題提起について、いくつかの代表作の中から解説を交えて考察していきます。

- 日時: 下記参照(全4回) 19:00～20:30 ●対象: 25名
- 受講料・教材費: 3,600円・300円 ●講師: 日吉信貴(神田外語大学非常勤講師)

プログラム

- 5/14(月) 全イシグロ作品を語るための視点～映画『上海の伯爵夫人』について～
※映画『上海の伯爵夫人』の上映はありません。
- 5/28(月) 複製された日本とイギリス～『遠い山なみの光』、『浮世の画家』、『日の名残り』～
- 6/11(月) 前衛的な実験小説～『充たされざる者』、『わたしたちが孤児だったころ』～
- 6/25(月) 歴史と記憶～『わたしを離さないで』、『忘れられた巨人』～



「日の名残り」
早川書房カズオ・イシグロ
著書表紙より

鑑賞
教養

わくわく!!城講座 ～続日本100名城の歩き方～

この講座では続日本100名城を中心に講義、現地見学を実施し、城郭や時代によって変貌する城等の役割を学びます。

※交通費等は実費です。



本佐倉城跡

- 日時: 下記参照(全5回) 19:00～20:30
- 対象: 34名 ●受講料・教材費: 6,000円・300円
- 講師: 萩原さちこ(城郭ライター・編集者)

プログラム

- 5/31(木) 続日本100名城～中世の城編～
- 6/9(土) 現地見学: 菅谷館(10:00～11:30)
- 6/14(木) 続日本100名城～近世の城編～
- 7/1(日) 現地見学: 本佐倉城(10:00～11:30)
- 7/5(木) 続日本100名城～そのほかの城編～

ダンス
健康

ヤング★ハワイアン

明るいハワイアン音楽にのせて、ハワイの風を感じながら楽しく踊りませんか。アロハフラは美容と健康に役立ちます。新しい仲間を募集中です。



講師: 高橋紫

- 日時: 4/25～10/3(水曜・前期17回) 19:00～20:30
- 対象: 10名(40名)
- 受講料: 13,500円
- 講師: 高橋紫ほか(プアナニ高橋・フラスタジオインストラクター)

その他にも、英会話や子ども対象講座など、募集講座があります。

3月25日からは、募集人数に達していない講座は先着順で受付いたします。

詳細は、砂町文化センターへ電話、またはHPでご確認ください。



わが町砂町再発見！ 春の新規講座

今年度のコラムで、堀口硝子、貴乃花部屋、野田瑛瑯と、ご紹介しました。
 今回、さらに砂町地域を再発見する講座を申込受付しております。
 まだまだ、砂町地域には、企業や施設、団体、風物など、再発見することがたくさんあります。
 今回紙面で、ご紹介できなかった、一部を講座でご紹介します。
 講座の受講で、さらに砂町の魅力を再発見してみませんか？

地域理解
散策

砂町のイッピン

砂町及び周辺地域のすぐれた「イッピン」の一部を紹介します。本講座では、実際に会社の歴史から、商品の説明等の講義。その他、2回現地見学も行います。教材費は、砂糖とお酢のイッピンをお持ち帰りいただきます。※6/21の見学は曜日・時間が異なります。

- 日時: 下記参照(全5回) 19:00~20:30 ●対象: 20名
- 受講料・教材費: 1,000円・1,200円
- 講師: 宮崎文幸(宮崎製糖代表取締役)
横井太郎(横井醸造工業代表取締役社長)
パラマウントベッド職員

プログラム

- 5/28(月) 宮崎製糖・・・含蜜糖の魅力
- 6/11(月) 横井醸造工業・・・お酢の魅力
- 6/21(木) 横井醸造工業・・・工場見学 13:30 ~ 15:00
- 7/9(月) パラマウントベッド・・・ベッドと眠りについて
- 7/23(月) パラマウントベッド・・・ショールーム見学



宮崎製糖「たまざとう」



横井醸造工業
「ふりかけ酢」



パラマウントベッド「楽匠Zベッド」

砂町地域にお住まいの方は、おそらく音が聞こえているかと思いますが、毎年8月1日に、荒川・砂町水辺公園で「江東花火大会」を開催します。

花火は、いつから始まって、打ち上げ花火の形や音は、どのようにして作られているのでしょうか？
 花火をもっと楽しく見ることができる内容の講座を実施します。

鑑賞
教養

花火の魅力 ~日本の伝統文化~

日本の伝統文化のひとつである「花火」。
 夏の代表的な風物詩として、人気の高い花火を短期集中講座として学んでいきます。

- 日時: 下記参照(全3回) 14:00~15:30 ●対象: 25名
- 受講料・教材費: 2,200円・300円
- 講師: 河野晴行(公益社団法人日本煙火協会専務理事)ほか

- 6/23(土) 花火の歴史や日本の花火の特徴について
- 7/7(土) 花火の製作工程について(製造工場で行われている様子)など
- 7/21(土) 両国花火資料館見学会



江東花火大会



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
心にうるおい、地域ににぎわい。
Koto City Culture and Community Foundation

発行
江東区砂町文化センター
〒136-0073 江東区北砂 5-1-7 TEL 03-3640-1751
<https://www.kcf.or.jp/>